

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

北海道開拓記念館内

電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

第45回北海道博物館大会 7月6日・7日、紋別市で開催

第45回北海道博物館大会および平成18年度北海道博物館協会総会を、下記のとおり開催いたします。多くの会員の参加をお待ちしております。

会期 平成18年7月6日(木)～7月7日(金)

会場 ホテルオホーツクパレス

〒094-8551 紋別市幸町5丁目

Tel. 0158(26)3600

■大会テーマ 開かれた博物館をめざして

－活性化をはかる－

■大会日程

《一日目》 7月6日(木)

9時30分～10時00分 受付

10時00分～10時30分 開会式

1) 主催者挨拶 北海道博物館協会 会長

2) 歓迎の辞 紋別市長

3) 祝辞 日本博物館協会 会長

北海道教育委員会 教育長

10時30分～11時40分 総会

11時40分～12時00分 表彰式

○北海道開拓の村ボランティアの会

○光洋マテリア株式会社

○釧路市立博物館友の会

12時00分～13時00分 昼食

13時00分～13時25分 ポスター解説

13時30分～14時30分 特別講演

○演題「指定管理者制度の導入をめぐる

－公立文化施設のこれまでと今後の課題」

東京大学大学院

人文社会系研究科 文化資源学研究室

助教授 小林 真理 氏

14時40分～17時00分 シンポジウム

○テーマ 開かれた博物館をめざして

－活性化をはかる－

○司会 斜里町知床博物館

館長 中川 元 氏

○コメンテーター

東京大学大学院

人文社会系研究科 文化資源学研究室

助教授 小林 真理 氏

○パネリスト1

(株)JTB北海道 市場開発室

市場開発担当ディレクター 菅野 剛 氏

「博物館が持つ地域の観光資源としての可能性」

○パネリスト2

上藻別駅通保存会

会長 池澤 康夫 氏

「上藻別駅通所の保存活動について」

○パネリスト3

利尻町立博物館

学芸課長 西谷 榮治 氏

「利尻島で舞う因幡の麒麟獅子

－利尻島調査研究事業の事例報告」

17時00分～17時10分 閉会式

《二日目》 7月7日(金)

9時00分 集合

9時00分～11時45分 見学会

○紋別市立博物館

○北海道立オホーツク流水科学センター

○上藻別駅通

11時45分 解散

以上のような日程でおこないますので、お申し込みになられていない方でも、お時間の都合がつく場合には、ぜひご参加いただき、活動のようすをお聞かせくださるようお待ちしております。活力にあふれる博物館をめざし、ともに次のステップを探りましょう。

第45回北海道博物館大会開催地 紋別市

今年度の北海道博物館大会は、オホーツク海沿岸中央に位置する紋別市で開催されます。当市道博協加盟団体の北海道立オホーツク流水科学センターと紋別市立博物館が皆様をお待ちします。

紋別市における先人の足跡は約1万7千年前のコムケ湖岸遺跡の旧石器時代に遡り、縄文時代からアイヌ時代まで途切れることなく続いています。文字として最初に登場するのは、1670年津軽藩の公式記録「津軽一統志」の、「まふへつ村」とアイヌコタン名が記録されたのが最初で、その後宗谷場所の一部として、天然の良港の紋別を場所請負人が漁業中心に開発、幕府直轄の後、江戸時代最後の9年間は会津藩領となりました。

1880年には、紋別村外九カ村戸長役場が設置され、港や後背地を中心に漁業や農業、林業を中心に発展し、1916年鴻之舞金山の発見、1921年国鉄名寄本線の開通、そして1931年港湾が整備されることにより、オホーツク海沿岸の行政、産業、経済の中心として発展していきました。

1954年には、紋別町、渚滑村、上渚滑村が合併して、人口35,937人、漁業、農業、鉱業を中心産業とする北海道19番目の市として、オホーツク圏の中核都市として近代化が急速に進みましたが、鴻之舞鉱山の閉山、遠洋・沖合漁業の規制、鉄道の廃止など、厳しい状況が続きました。しかし、紋別市は先人が築き育ててきた歴史をしっかりと見つめ、次の世代に引き継ごうとしています。その中核となるのが博物館です。ぜひオホーツク海の爽快なそよ風の中、各施設をご堪能下さい。

各館の紹介

【紋別市立博物館】

紋別市の博物館の歴史は1952年公民館の開設に伴う郷土資料の展示コーナーが最初で、1968年には紋別市立郷土博物館として市立図書館と併設新築開館した。そこで歴史・自然などの資料を調査・収集・展示してきた。しかし、建物の老朽化が著しく、生涯学習に対応できる施設として新博物館の建設が市民の願いとなって、2002年4月紋別市立博物館として市の中心部に移転、オープンした。

鉄筋コンクリート一部2階建て、延床面積2,095㎡、収蔵資料20,139点で、常設展示室、収蔵展示室、ホール、ボランティア室などの「博物館スペース」と、市民ギャラリー、郷土学習室、工芸室、窯室などの「生涯学習スペース」からできている。博物館スペースの中心は常設展示室で、紋別の人々の歴史・文化と、紋別の基礎をつくったハマ(海)

・オカ(陸)・ヤマ(鉱山)に代表される漁業生活、農業、林業、鉱山などが、映像、模型、実物資料などで分かりやすく展示、紹介されている。また収蔵展示室では資料を身近に感じる様に収蔵展示され、自由に見ることができる。あくまで教育・学習の場として位置づけており、入館料は無料になっている。

【北海道立オホーツク流水科学センター】

北海道立オホーツク流水科学センターは、流水や海洋に関する科学的知識を一般の人に分かりやすく楽しく学んでもらうとともに、流水に象徴されるオホーツク圏域の自然と生活文化に対する理解を深めてもらうことを目的に、道が設置したもので、1991年2月完成、オープンした。

施設としては、臨場感たっぷりの視覚体験ができる「アストロビジョン(全天周映像)」、冷たいブリザードが吹き荒れる流水原の寒さを体験できる「厳寒体験室」、遊びながら流水を学べる「流水プレイランド」、オホーツク海の地形模型、ガリンコ号などを中心に、氷の生成、地形、海流などの特徴が解説され、流水のもたらす影響を分かりやすく学習できる「展示室」、レーダーや人工衛星がとらえた流水の動きなど、流水に関する最新情報を提供する「流水観測室」、オホーツクの雄大な自然が180度のパノラマで楽しめる「展望室」などがある。2006年4月から指定管理者の運営となった。

【上藻別駅通】

民間ボランティアの上藻別駅通保存会により、元上藻別駅通所を修復し、2005年上藻別駅通としてオープン。地域の農業・林業や鴻之舞関係資料を収蔵・展示。高齢者には郷土の歴史を再認識させるとともに、子どもたちには身近な歴史教育を、展示品や実際にその時代に生きた会員により話を聞いて体感することができる。

【オホーツク・タワー】

1996年2月オープン。オホーツク海に浮かぶ展望塔。海上からはもちろん、海底から海や流水の様子が観察できる世界初の施設で、オホーツク海の氷海研究や海洋観測をはじめとしたいろいろな研究も実施している。また、このタワーにつながる第三防波堤(クリオネプロムナード)は洋上の散策や釣り、海からのながめ、防波堤の景観などの親水機能を持った施設になっている。

【ゴマちゃんランド】

野生のアザラシを保護している施設で、アザラシと触れ合うことができる。市から委託を受けた野生水族繁殖センターが管理運営している。

(紋別市立博物館 佐藤和利)

新館紹介

「根室市歴史と自然の資料館」のご紹介

根室市歴史と自然の資料館（以下、当館と表記）は平成16年10月に開設し、学芸員2名・管理部門2名（文化財係と兼務）・臨時職員3名の7名体制で運営しています。根室市には長い間、博物館建設構想があり、その実現に向けて「根室市博物館開設準備室」、「根室市郷土資料保存センター」という組織が存在していました。しかし社会情勢の変化や地域経済の衰退に伴い、その悲願を達することなく今日に至り、両組織を統合する形で当館は開設されました。と申しましても、新たに建物を構えたわけではなく「根室市博物館開設準備室」、「根室市郷土資料保存センター」が所在した同じ場所と建物で活動を続けております。

現在、資料館として使用しているレンガ造り建物は、昭和17年に大湊海軍通信隊根室分遣所として建てられたものです。昭和20年に第二次世界大戦が終わり、海軍の施設としての役目を終えましたが、昭和23年に内部を改修し花咲港小学校の校舎として使われていました。その後、平成元年にこの建物の向かいに学校が新築されたため、再び改修を行い当館の前身である「根室市郷土資料保存センター」としてオープンしました。そしてこの度、資料館として継続して使用することになり、レンガ造の歴史的建造物を保存・活用している好例であるということがいえます。

「箱モノ」の件はさておき、20余年に渡り資料の収集、保管、展示といった博物館の基本的な活動を継続してきており、現在データベースに登録されているものだけでも27,000点を数え、未登録資料や考古資料を含めると所蔵資料数は数万点に及びます。

中でも、初田牛20遺跡出土の土偶、穂香竪穴群出土の動物意匠縄文土器、俄羅斯船之圖、ワシレイラフロウの圖、旧樺太の日露国境標石、明治牧場の大金庫などは市指定文化財として登録されており、当館の目玉資料として展示されています。

また自然資料も剥製を中心に骨格、植物、岩石などの各種標本を保管しています。とりわけ、チシマラッコの骨格標本・剥製やコウモリ類の標本は学術的な価値も高く、他館への貸出しや普及活動等で利用されています。

普及事業は人文系、自然系それぞれで行っています。人文系では土器・勾玉作り、市内史跡・旧跡巡りなど、自然系は自然観察会、コウモリ観察会、星座観察会を行っています。このほか、自然、人文それぞれで年1回ずつ企画展を開催していま



コウモリ観察会の様子



チャン跡見学会の様子

す。昨年は「根室の自然展」、「ホニオイの古代文化」と題した企画展を開催しました。さらに「学芸員講演会」を行い、市民に調査や活動成果を発表する機会をもうけています。また、市民有志で構成される「藤野家古文書解説会」や植生調査研究会「ねむろ花しのぶ会」といったグループも資料館を中心に活動内容を充実させてきています。

展示用具やスペースなどは充実しているとはいい難いですが、館蔵品の整理、普及事業等は継続的に行い、活用し耐えられるようにしています。今後とも道内外の館園などと協力しながら博物館活動の内容充実に向けていきたいと考えています。



住 所：北海道根室市花咲港209番地
 利用時間：午前9時30分～午後4時30分
 休館日：月曜日、祝日、年末年始(12/31～1/5)
 入館料：無料
 交 通：JR根室駅より根室交通バス花咲線車石
 前下車徒歩10分

Tel/Fax：0153-25-3661

公式HP：根室市役所HPよりジャンプ

非公認blog：<http://curator.exblog.jp>

(根室市歴史と自然の資料館 学芸員 猪熊樹人)



小樽市の新博物館構想について

小樽市では、新たな博物館構想に基づく計画により、新博物館開設の準備を進めています。

この計画では、近年の学習ニーズの多様化による幅広い学習活動に対応できる生涯学習の場の充実が強く望まれている状況において、歴史、自然、科学などの教育情報を集約して機能的活用を図り、次代を見据えた魅力ある施設整備を行うとともに社会教育施設の連携を強化し、有機的活用を図る必要があると考えています。そこで、この計画の第一段階として、今年3月末で閉館した旧小樽交通記念館を博物館と科学館機能を持った新たな博物館として創設し、社会教育施設の核となる施設とすることとなりました。

新博物館が開設される旧小樽交通記念館は、平成8年に第3セクターに管理委託して開館したもので、北海道鉄道発祥の地に、「しづか号」などの準鉄道記念物、重要文化財の指定を受けている鉄道車輛保存館など、貴重な資料を数多く展示していました。また、小樽市博物館は小樽運河沿いの旧小樽倉庫で考古・歴史・民俗・自然等の展示を行ってききましたが、展示面積や収蔵スペースは

十分とは言えず、スペースの確保が求められていました。青少年科学技術館は各種講座開講に特徴を持った科学館として運営してきましたが、築後40年余を経過し、設備の老朽化が進み、近い将来大改修を余儀なくされる状況にありました。

この新博物館では、旧交通記念館の交通関係資料を引き継ぐとともに、大規模企画展の開催を可能とする展示室を設け、日本的、世界的資料の鑑賞と学習の場を広く市民に提供します。また、デジタルアーカイブを備えたレファレンスルームを設置し、市民の多様な学習ニーズに応じて行く機能を高めます。閉館する青少年科学技術館を引き継ぐ機能として、科学展示室や実験室を新設します。多目的シアターでは、プラネタリウムの他、小樽に関連する映像等の紹介も行って行く予定です。現小樽市博物館は分館的に残し、現在の展示機能を維持していくこととなります。

この新博物館は、来年夏を目途に開館準備を進めています。オープン時にはぜひお越しください。お待ちしております。

(小樽市教育委員会 新博物館開設準備室
主任学芸員 東山一成)



総会と研修会の開催について

平成18年度の道南ブロック博物館施設等連絡協議会の総会と研修会を北斗市公民館で7月13日(木)・14日(金)に開催します。

今年度の研修会テーマは、「社会教育と博物館(活動)」です。

I部が「『社会教育における専門職員の役割』-専門性とは何か-」という標題で、住吉聡主査(渡島教育局生涯学習課社会教育指導班)が講義します。

II部は「フォーラム・ディスカッション」で進行役を根本直樹助教授(教育大学函館校)がつとめ、活発な公開討議の場となるのではないかと期待されています。

今年度の研修会のテーマ選定の理由は、あるブロック会員の発言がきっかけでした。「同じ社会教育行政に携わっている職員でありながら、博物館のことや博物館で行っている事業活動そして学芸員という専門職について意外なほど理解していない。また、博物館側と社会教育側との間で情報の共有が図られていないので、相互の意向が理解されにくいきらいがあるようだ」

確かに社会教育主事を含む社会教育担当の職員の多くは、「博物館=文化財(特に埋蔵文化財)」あるいは「学芸員=発掘調査員」という認識が強くあります。美術館や動物園などの学芸員の話題がマスコミでも取り上げられているのにも関わらず一般的な博物館活動や学芸員という存在についてこんなにも知らないのかと落胆すること多々あります。

一般の人なら仕方がないとしても社会教育担当者がそれでは困る、何か良い方法はないだろうかというわけで、今年度の研修会テーマを持って、渡島の社会教育の指導的立場にある教育局の社会教育指導班に相談したのです。たまたま指導班のほうでも「社会教育の専門性(職員)」が課題の一つとして考慮していたときだったため、I部にある標題で講義をしていただくことになりました。

社会教育担当者が博物館(活動)に寄せている考えや期待そして役割について聴くことは、道南では初めての機会です。

今回の研修会は、社会教育主事を含めた社会教育関係職員にも周知する予定ですので、多くの人に参加していただき、II部のディスカッションをとおして互いの理解が深められることを願っております。(知内町郷土資料館 学芸員 高橋豊彦)



名寄・風連合併記念 パネル展を開催して

本年3月27日、名寄市は風連町と対等合併し新生名寄市としてスタートしました。名寄と風連は隣接し、歴史・自然・産業なども似通っており、それぞれの開拓記念の年は1年ほど違いますが、行政上は天塩国上川郡上名寄村、多寄村として明治30年6月に設置され同じスタートを切っています。

今回の企画展は名寄・風連とも百余年の歴史がありますが、同じ生活圏に暮らしてきた住民が今まで知っていそうで意外と知らない、知られていないお互いの歴史を知り、共に新たな歴史を創るきっかけになればという願いを込めて企画しました。展示内容は、①新しい名寄市、②行政の移り変わり、③教育の移り変わり、④交通と街並みの移り変わり、にポイントを絞り、写真と略年表を中心に解りやすく、老若男女に関わらず関心を引いてもらえるよう心掛けました。

合併に伴い、機構的には北国博物館が本館、風連歴史民俗資料館が分館として位置付けられ博物館業務を行うこととなり、本企画展もその第1弾として5月から6月にかけて巡回して開催したと

ころです。住民の関心もあり、また合併と時を同じくして開局した「エフエムなよろ Air てっし」に地域情報の発信基地という性格をフルに生かしてもらい、博物館情報を案内していただき好評のうちに終了することができました。

本館は平成8年に「北国」をテーマに、分館は平成2年に「米作り」をテーマに常設展を設置し開館し、各種普及事業を展開してきました。新市がスタートし、まだ3ヶ月で細部までいたらないところがあり、両館が有効活用されるにはまだ時間がかかるのが実情です。両館とも開館から10年を越え、様々な面で時代や住民ニーズを見据え、軌道修正していかなければなりません。また道博協でも近年常に議論されている指定管理者制度など管理運営のあり方も問われている中で、今回の合併を機に地域の博物館のあるべき姿、本質を見誤らないようにしたいと思います。



(名寄市北国博物館 学芸員 吉田清人)



日胆地区博物館等 連絡協議会総会研究協議

「市町村合併による博物館活動の変化」

合併して何か変わりましたか？

「博物館活動自体に、劇的な変化はない。合併したてということもあって、今年度は、旧態依然」。

今春、日高・胆振地区で誕生した新市町の方々、伊達市・下田良徳氏、洞爺湖町・角田隆志氏、むかわ町・櫻井和彦氏、日高町・川内谷修氏、新ひだか町・小野寺聡氏らの報告の要約である。

今回総会は、「市町村合併による博物館活動の変化」を研究協議のテーマとし、去る6月7、8日に、新ひだか町（旧静内町と旧三石町）で開催された。

合併後、まだ日が浅く、報告すべき「変化」がないため、合併前の事務すり合わせ作業の体験談が報告の重きをなし、テーマとの厳密な一致をみなかった今回の研究協議。



しかし、「合

併」をテーマとしたことで、従前からの素朴ながら核心的な問題の再考が、あらためて提起された。

「どこで講座・学習会を開催するのか？」

中心市街と郡部、格差のないサービスや情報を提供するために、市町村域拡大が生む「距離」をどう克服するのか。その手法とともに、道義心の有無を問われているような、このことについては、事例の増加を待って、議論することとなった。

ところで、合併の当事者であったことから、すべてを遠視した気分の私は、研究協議に集中せず、あてもないことを心に思っていた。

J.D.サリンジャーの「ライ麦畑でつかまえて」に、博物館は十万回行ったとしても、すべての物がいつも同じ所に置いてあって、何一つ変わらないのがいい、変わるのは自分だ（年をとるなどの内的変化ではなく、博物館へ行くときの服装や引率者が変わるなどの外的変化）という内容の一文があった。

合併後の当協議会加盟館を、利用者はどう見ているのだろうか。皮肉ではなく、親しみをこめて旧態依然といってくれるだろうか・・・。

今回は、旧態を打破し、好転の変化を創出したという報告も聞きたいが、相変わらずだという、親近感わく旧態依然な報告も聞きたい。

(新ひだか町静内郷土館学芸員 齊藤大朋)



博学連携の試み～ 中学・高校生と郷土学習

多くの博物館・資料館でも事情は同じかと思いますが、小学生と比較すると、中学生や高校生はなかなか見学にきてくれません。そこで学校の先生方に協力してもらい、「出前講座」を積極的に実施しています。以下に当館での今年度の実践例を紹介します。

・「大昔の別海」（中学3年生対象）

別海町の遺跡についてお話し、当町から出土した化石・土器・石器に実際にさわってもらいました。また勾玉作りや火起こし体験を行い、古代生活の一端を体験してもらいました（写真左）。

・「★開拓使別海缶詰所」

（中学生対象）

約130年前に当町に設置された開拓使缶詰工場について、当時の缶詰のつくり方、お雇い外国人、別海が選ばれた理由などのトピックを取り上げてお話ししました。

・「巣箱作り」（高校3年生対象）

巣箱を制作して学校の敷地内に設置



しました。別海町の野付半島と風蓮湖がラムサール条約の登録地になったこともあり、郷土の自然について学習しながら自然環境の保全を考え、郷土から世界を考える視野を持ってほしいとの期待が込められています（写真右）。

こうした「出前講座」は概ね好評ですが、実施に当たっては一部の先生たちの郷土学習への熱意によるところが大きいのが現状です。学校の授業内容との関連性も考慮しつつ、より魅力あるプログラムを提供できる準備を今後一層整えていく必要があると考えています。

（別海町郷土資料館 学芸員 戸田博史）



民間活力による新たな博物館 相次いでオープン

網走管内では平成17年度に民間の力による新しい博物館が相次いでオープンした。いずれも行政の援助を得ないで民間の資金と労力により古い建物を活用・整備し、博物館としてオープンさせたもので、今後の取り組みが注目されており、近隣の博物館でも協力・共栄を図り始めている。

5月にオープンしたのが、紋別市上藻別にある上藻別駅通。この建物は、大正15年に駅通として建てられたもので、その後旅館、住宅、空き家となっていたもので、NPオホーツク・クラスターが建物を譲り受け、平成16年に現役を引退した鴻之舞金山関係者を中心とした人たちが中心になって、上藻別駅通保存会を結成。建物を修理するとともに、関係者に資料の提供を呼びかけ、金山関係の鉱石や掘削機械、各種記録や生活用具、農林業の道具などの資料を集めて展示し、上藻別駅通としてよみがえらせた。

関係者がボランティアで修復、資料を集めて展示し、管理や来訪者への案内や説明も交代で担当するという資料館で、高齢者には郷土の歴史を再認識させるとともに、子どもたちには身近な歴史

教育を、展示品や実際にその時代に生きた会員により話を聞いて体感することができ、博物館の原点ともいえる。

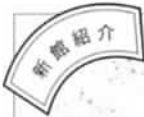
開館は5月から12月、冬季は閉館。見学時間は午前9時頃から16時まで、保存会のメンバーが資料の説明や鴻之舞金山の様子など解説してくれる。問い合わせは上藻別駅通電話0158-26-5110番。

6月にオープンしたのがマウレ・メモリアル・ミュージアム。遠軽町丸瀬布上武利の丸瀬布小学校武利分校の旧校舎を再活用したもので、株式会社HK I アクシス（札幌市）が町から建物を借りて運営、鉄骨補強の木造2階建、延床約1000㎡。

心豊かさをはぐくむ地域文化の拠点としての活用を図ろうとしており、「口と手で描かれたアートギャラリー」、「祈りのギャラリー」、「自然科学ギャラリー」がある。また世界の蝶の標本約1400点の展示や、武利小学校記念室などがあり、分校当時の様子がメモリアルされている。

住所は遠軽町丸瀬布上武利164番地、開館期間は4月下旬から10月上旬で冬季間は閉館。開館時間は9時から17時、入館料は無料。休館日は毎週火曜日（祝日の場合は翌水曜日）となっている。電話は0158-49-5181番。

（紋別市立博物館 佐藤和利）



「青少年のための科学の祭典」北見大会 凍ったバナナでクギ打ちも

科学技術の理解は単なる知識の伝達ではなく、観察、実験等の実体験が効果的だといわれております。とりわけ子供のころに受けた感動や体験したことは原風景となって生涯残るといわれておりますので、この時期にこそ、科学技術は面白いものだという体験をたくさん積むことが必要です。

幸い当市では、北網圏北見文化センターの事業に理解、支援をいただいているNPO法人オホーツク文化協会や多くのボランティアの先生、学生の方々がおり、大変ありがたく思っております。

こうした方々のご協力をいただき「青少年のための科学の祭典」を毎年11月に開催しております。今回は、祭典の様子を当時の新聞記事を交えご紹介させていただきます。

平成17年度は、網走管内の化学や物理の先生方100人以上が準備と運営を担当し、「科学屋台」やサイエンスショーなどに、大勢の児童生徒が詰め掛けました。

ひもに鉄分やマグネシウムを付着させる線香花火作り、せっけん水に洗濯のりを混ぜた「割れないシャボン玉」で楽しむお手玉など、あちこちで

遊び心を刺激する実験を繰り広げました。小型のハッカ蒸留装置、電極を利用した蒸パン調理などの展示も好評で、新しい発見に歓声を上げ目を丸くする子供たちであふれました。

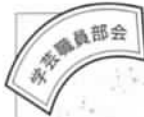
正面ロビーの「サイエンスショー」では風船やドライアイスなどを使った10種類の実験を披露し、北見市立相内中学校の先生は「超低温の世界」と題し、液体窒素でバナナやリンゴなどが一瞬にして凍る仕組みを説明しました。

カチカチに凍ったバナナでクギを打ったり、凍ったボールを金づちで割る実演では、大人たちからも「おーすごい」と驚きの声が上がっていました。

当日は、約60のブースが並び、3,685名の入場があり、子供からお年寄りまで目を輝かせ、科学を学ぶ楽しさを味わった大会となりました。

さて、合併に伴い、本年3月5日に新「北見市」が誕生いたしました。新市の誕生は、当センターを北網広域圏・網走支庁管内の中核施設として、その機能について改めて考える契機でもあります。当センターの運営理念であります未来に向かって青少年の科学する心、創造する心を培うために、頑張ってもらいたいと考えております。

(北網圏北見文化センター 館長 藤井啓一)



情報・話題・動き

平成18年度学芸職員研修会その2

本年10月12日から13日の2日間、北海道大学総合博物館を会場に18年度学芸職員研修会が開催されます。「地域学のスズメー北海道」をテーマに、北海道特有の自然、歴史、文化について学芸職員部会会員が解説する、そのような研修会をと考えております。具体的には、以前、北海道博物館協会が編集したガイドブック「北海道の博物館」に掲載されたコラム、例えば「ヒグマ」「黒船」「蝦夷錦」などがありますが、その後の研究成果や生じた課題などを付加し、発表していただくことを計画しております。研修会には学芸職員のみならず、一般市民にも開放すべく、調整を図っております。学芸員が日ごろからどんな仕事（調査・研究・教育）をしているのかを知っていただく絶好の機会としたいものです。7月中に研修会の案内を送付する予定でおります。

道内地学系博物館を特集

地学団体研究会は全国に2千数百人の会員がいる地球科学の学会です。その北海道支部が支部報「Brealopithecus」（北のサル）170号で

道内の地学系博物館の活動を紹介する特集「北海道の地質と化石の博物館－地域に根ざした取り組み－」を組みました。

紹介されている博物館は、中川町自然誌博物館、沼田町化石館、むかわ町立穂別博物館、士別市立博物館、日高町立日高山脈博物館、足寄動物博物館、旭川市博物館、札幌市博物館活動センターの8施設です。

それぞれの施設の学芸員が日ごろの博物館活動や地域の自然の研究成果などを執筆しています。「地学系はおもしろい活動をしているね、」と別の分野の学芸員の感想も聞いております。

「Brealopithecus」は「インターネット版」だけで発行されております。北海道支部のURLは、<http://www.agch.cside.ne.jp> ここから探すと、だれでも読むことができます。現在、北海道博物館協会の運営改善の検討課題として上がっているインターネットの開設や本ニュースの掲載の参考になると思います。ぜひご覧ください。

(学芸職員部会 矢吹俊男

澤村 寛)

館園の主な展覧会と普及事業

(2006年8月～10月)

石狩

札幌市青少年科学館 (011-892-5001)
 9/1～10/4 「秋の移動天文台」
 9/8～11/10 「星空の歩き方(天文講座)」
 北海道立近代美術館 (011-644-6881)
 8/29～10/9 「パウル・クレー展-創造の物語」
 北海道立三好好太郎美術館 (011-644-8901)
 7/21～10/1 所蔵品展「青春のしぶき-あるモダニストの軌跡-」
 いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)
 8～9月 テーマ展「濃昼山道をあらく-濃昼山道の歴史と現状-」
 8～9月 特別展「浜益ニシン年代記」(はまます郷土資料館で開催)
 札幌芸術の森 (011-571-0090)
 8/6～9/24 「GUNDAM 来るべき未来のために」
 10/1～10/29 「空間に生きる-アート・建築・環境」(仮称)
 北海道立文学館 (011-511-7655)
 9/9～10/1 「知床の自然と描く-関屋敏隆絵本原画展-」
 10/14～11/26 特別企画展「池澤夏樹のボトス-旅する作家と世界の出会い」

渡島

市立函館博物館 (0138-23-5480)
 7/25～9/18 特別展「北の守りと外国-蝦夷地に築かれた城-」
 七飯町歴史館 (0138-66-2181)
 9/2～10/25 特別展「箱館戦争とななえ」
 北海道立函館美術館 (0138-56-6311)
 9/2～10/9 開館20周年記念「美術館に行こう！」

松山

ピリカ旧石器文化館 (01378-3-2477)
 8/19、9/16 「石ヤリをつくる」
 10/21 「細石刃をつくる」

後志

北一ヴェネツィア美術館 (0134-33-1717)
 8/26～11/17 「巨匠の手による女性像展」
 荒井記念美術館 (0135-63-1111)
 9/26～12/15 企画展「ピカソをめぐる女性たち」
 小川原備記念美術館 (0136-21-4141)
 8/23～9/24 「第48回蕨彩会展-土地の文化を拓く」
 9/6～10/10 「06造形展-風の中の展覧会」
 余市水産博物館 (0135-22-6187)
 8/22～10/29 「海に生きるアイヌ民族」
 小樽水族館公社 (0134-33-1400)
 8/1・2・7・8・9 「水族館体験隊」
 NPO法人歴史文化研究所 (0134-32-6462)
 8/29～11/5 第3回特別展「小樽の港文化展」

空知

栗山町開拓記念館 (0123-72-6035)
 10/1～11/30 特別展示生活シリーズ5「交易と商業」
 砂川市郷土資料館 (0125-52-2339)
 9/13～11/27 特別展「新着資料展」
 三笠市立博物館 (01267-6-7545)
 7/15～10/9 特別展「インドのアンモナイト」(仮称)

上川

士別市立博物館 (01652-2-3320)
 10/15～11/5 特別企画展「楽器とレコード展-和楽器の魅力と懐かしいレコード盤」
 10/1～15 巡回移動展「月見展」
 旭川市科学館 (0166-22-4171)
 7/15～9/18 「昆虫の世界」展

10/22 「秋の科学館祭り」

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-52-0033)
 9/9～11/19 企画展「保井智貴展」
 中川町エコミュージアムセンター (01656-8-5133)
 7/28～10/29 特別展「貝」(仮称)
 10/6～9 森の学校06秋
 富良野市博物館 (0167-42-2407)
 8月上旬～9月下旬 写真展「ナキウサギ展」
 北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)
 7/8～10/22 収蔵品展「現代の具象-絵画と彫刻」
 9/9～10/22 特別展「空海マンダラー-弘法大師と高野山展」

網走

網走市立郷土博物館 (0152-43-3090)
 8～9月 「涛沸湖の自然展」
 博物館網走監獄 (0152-45-2411)
 8/1～10/30 特別展「裁判制度の移り変わり-平成21年度新裁判制度にむけて」
 北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)
 7/15～10/9 環太平洋の文化。「コリヤークーツンドラの開拓者たち」
 北海道立オホーツク流水科学センター (01582-3-5400)
 8/5～8/27 「佐々木栄一・原志利写真展」
 9/30～10/28 「北海道写真協会紋別支部写真展」
 紋別市立博物館 (01582-3-4236)
 8/26～27 シンポジウム「環オホーツク海文化のつどい」
 10/13～11/12 「北海道の現代美術展」
 美幌博物館 (0152-72-2160)
 7/9～9/24 特別展「美幌の蜚」

胆振

室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)
 9～10月 企画展「室蘭と酒の歴史展」(仮称)
 むかわ町立博物館 (0145-45-3141)
 7/15～9/3 夏季特別展「むかわ町の貝と化石」

日高

沙流川歴史館 (01457-2-4085)
 9/20～11/19 特別展「沙流川流域の自然(植物編)」
 様似郷土館 (0146-36-3335)
 10月 「様似山道歩こう会」

十勝

北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)
 9/8～11/8 「チェコ絵本とアニメーションの世界」
 9/8～1/8 十勝の新時代IX「近藤みどり展」
 神田日勝記念館 (01566-6-1555)
 8/4～16 「斎藤吾朗の軌跡」
 8/18～23 「ATC5展」
 10/7～15 「第12回馬の絵作品展」

釧路

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)
 9/16～11/15 特別展「水越武写真展」
 釧路市こども遊学館
 9/16～18 「宇宙の日イベント」
 厚岸町海事記念館 (0153-52-4040)
 9月下旬 「アッケシソウ現地視察」
 標茶町郷土館 (01548-7-2332)
 9～11月 「収蔵資料移動展」

根室

根室市歴史と自然の資料館 (01532-5-3661)
 8/30、9/28 「星座観察会」
 8/2・16、9/6・20、10/4・18 「藤野家文書解説会」
 別海町郷土資料館 (01537-5-0802)
 8～9月 第5回加賀家文書館特別展「野付通行屋跡遺跡発掘調査」